読み比べ・沖つ白浪・（『大和物語』）

あらすじ 次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

第一段	第二段	第三段	第四段	第五段
大和の国に思い合って暮らす男女がいたが、女がたいそう〔①　　〕なってしまったので、男は別の妻を作った。	裕福な女のもとに通いなれて、たまにもとの女のところに来てみると、女は〔②　　〕様子で、男がよその女のもとに行くのを〔③　　〕もない。男が女のもとに泊まろうと思う夜も、「〔④　　〕」というので、このような態度であるのは、他の男を通わせているからだと男は思った。	男は出ていくと見せかけて〔⑤　　〕の陰に隠れて見ていたら、女は、月のたいそう〔⑥　　〕夜に、身だしなみを整えて、男の身を案じる歌を詠んだ。その姿を見た男は、女のことをたいそう〔⑦　　〕思った。	さらに男が見ていたら、女は〔⑧　　〕に水を入れて胸に据え、それが沸騰すると、また水を入れる。それを見てひどく〔⑦　　〕思い、走り出して女を抱きかかえ、他のところにも〔⑨　　〕行かず、そのまま女のもとにいた。	月日が多く経ち、通わなくなった女のことを思い出し、訪ねてみたところ、女が〔②　　〕服を着て、大きな櫛を額髪にさし、自身でご飯をよそっている姿を見て、男は〔⑩　　〕、その後通わなくなった。

重要語句 次の語句の本文中での意味を答えなさい。

(1) 清らなり（六七・2）

(2) さらに（六七・7）

(3) 心憂し（六七・8）

(4) かなし（六八・1）

(5) つれなし（六八・8）

重要文法 傍線部の助動詞の意味と活用形を答えなさい。

(1) せさせけり。（六七・5）

(2) とどまりなむ（六七・8）

(3) あらむ（六七・10）

(4) 越ゆらむ（六七・15）

(5) なりけり（六八・1）

	意味	活用形
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		

内容理解

1 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

(1) いとあはれと思ひけり。(六七・8)

(2) 心のうちに思ひけり。(六七・10)

(3) 言ひける。(六七・14)

(4) かなしうなりぬ。(六八・1)

(5) 据ゑたりける。(六八・4)

(6) 立てりけり。(六八・10)

ア 男　イ もとの妻　ウ 新しい妻

(1) [　　]　(2) [　　]　(3) [　　]　(4) [　　]　(5) [　　]　(6) [　　]

2 次の文を現代語訳しなさい。

(1) さらに妬げにも見えずなどあれば、(六七・7)

(2) 月のいといみじうおもしろきに、(六七・12)

(3) 「いかなる心地し給へば、かくはし給ふぞ。」(六八・6)

[　　]

[　　]

[　　]

3 「異わざする」(六七・9)の具体的内容が暗示されている部分を本文から**二箇所**抜き出し、それぞれ**四字以内**で答えなさい。

[　　]

[　　]

4 もとの女が「金椀に水を入れて、胸になむ据ゑたりける」(六八・3)のようにした理由は何か、答えなさい。

[　　]

5 この文章からうかがえる当時の婚姻習俗の説明としてもっとも適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 女が自分の家に男を迎えて、経済面での男の生活を支えるために、女は一定の経済力が必要だった。

イ 男が女のもとに通って、女の生活面での面倒を見るため、男に見放された女の生活は悲惨だった。

ウ 男女の自由な恋愛感情が雅びとされたために、結婚に伴う生活の問題は二の次とされがちだった。

エ 男と女はそれぞれ別に家を構え、生計を別個に営むため、結婚や離婚はかなり自由に行われた。

[　　]